

# 伊勢遺跡の先鋭性を浮かび上がらせる

私たちは大らかな遺跡のスケールに接続する、単純な幾何学を用いた配置と建築を提案します。  
 ムラからクニへ。伊勢遺跡は、古代社会形態のドラスティックな変化を画する出来事の間として、他に類を見ない稀有な遺跡です。  
 幾何学が象徴する高度な精神性あるいはコスモロジーは、連合国家の成員を結びつけるために不可欠な役割を果たしたと考えられます。  
 素朴さとは無縁な、抽象度の高い知的活動を想起させるような場所、日本の起源に迫る壮大な古代ロマンに接続するような場所をつくりたいと思います。

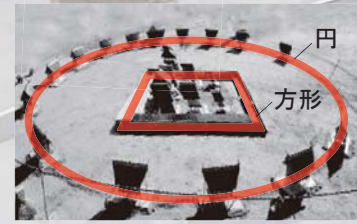


## A. 古代の幾何学を浮かび上がらせる

特定テーマ(2) 良好な景観と環境設備等に係る技術提案

### A-1. 円/方形の幾何学を可視化する

- 円と方形の組み合わせで計画的に配列された特異な建物配列をもつ伊勢遺跡と呼応するように、方形区画を明確に可視化し円形の平面形をした展望台を計画します。
- 古代と現代を重ね合わせる円/方形の風景が、訪れる人の気分を盛り上げます。
- 展望施設の平面形を円形とすることで、展望施設から見下ろす弧状配置の祭殿と弧状溝の仮想ラインをより強調させます。



方形/円 - 古代の幾何学

### A-2. 矩形を使わないことで方形区画を浮かび上がらせる

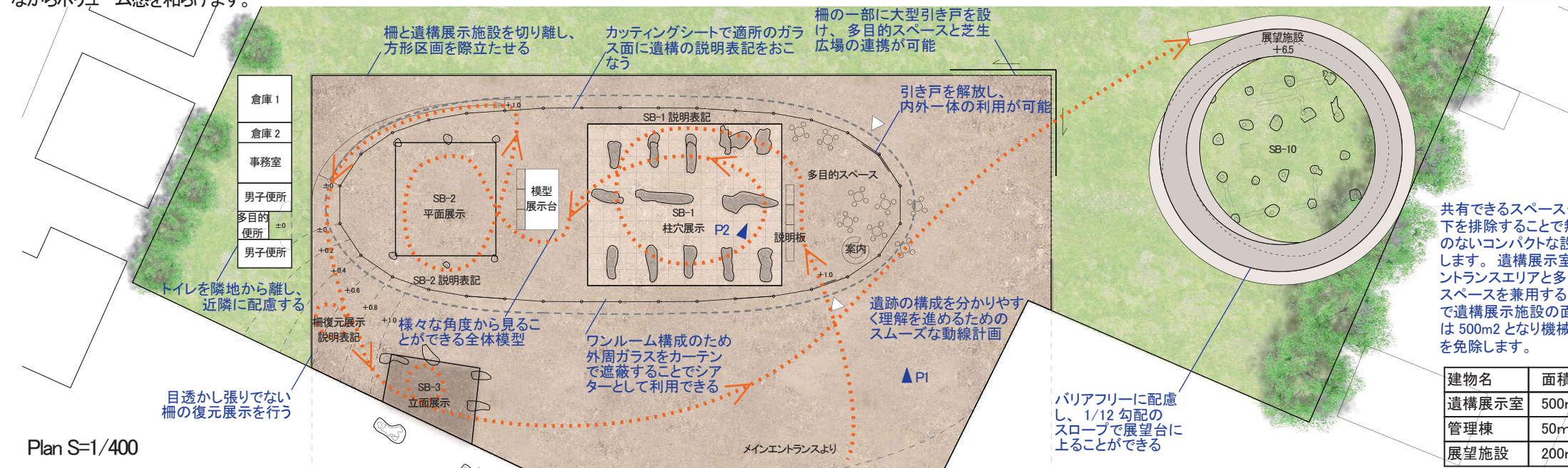
- 遺構展示施設は、あえて矩形でなく楕円形としました。矩形は方形の図形的完結性を乱すため、全く異なる図形をさりげなく用いて方形の強さを浮かび上がらせます。
- 復元する柵は、屋外で説明展示を行います。柵と展示施設を分けることによって、柵の連続性と方形区画を浮かび上がらせます。
- 楕円の屋根は古代の舟を思わせるものでもあります。水との関わりが巧い伊勢遺跡にふさわしく、格調高く印象的な外観を持ちます。
- 屋根のシルエットは、弥生式土器の柔らかな造形と親和性があり、色合いは銅鐸を思わせるものでもあります。



方形が乱される / 方形を乱さない

### A-3. 幾何学と周辺環境を調和させる

- 遺構展示施設は山のような自然物をも思わせる、形のないかたちです。透明度の高い展望台と共に、周辺とも違和感のない景観をつくります。
- 屋根の高さを抑えることで、周辺の住宅街に対して圧迫感のないように視覚的な配慮をします。
- 丸みのあるかたちは柔らかな印象を与え、大きな屋根ながらボリューム感を和らげます。



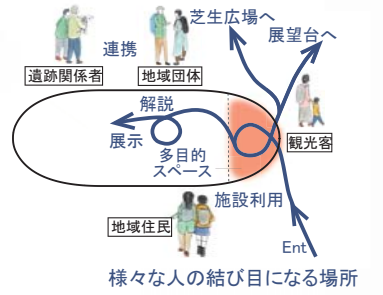
Plan S=1/400

## B. 多方向につながる屋根

特定テーマ(3) 地域の交流をはぐむ場

### B-1. 結び目となる多目的スペース

- メインエントランスから見える位置に多目的スペースを配置し、市民交流を促します。
- 多目的スペースは遺構展示施設と展望施設の結び目に位置し、専門家、ボランティア、来訪者など様々な交流の場となります。
- 多目的スペースは普段は解放されており、一般の市民が散歩の休憩時に利用できるなど立ち寄り易い施設となります。



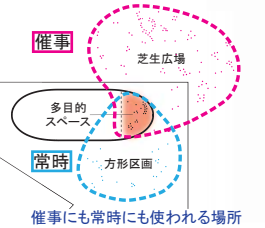
様々な人の結び目になる場所



PI 外部と一体で利用できる多目的スペース

### B-2. 広場に面した屋根下空間

- 柵の一部の大型引き戸が解放でき、伊勢遺跡まつりなどの催事の際には広場と一体となった多目的スペースをイベント拠点として利用できます。
- 常時多目的スペースの出入り口のガラス面の一部は解放でき、内外を一体的に利用できます。



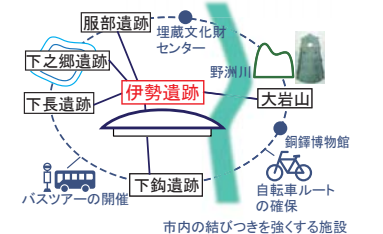
催事にも常時にも使われる場所



P2 様々な使い方ができる多目的スペース

### B-3. 地域に開かれた多目的スペース

- 伊勢遺跡保存会や守山商工会議所青年部など地域団体と共に、周辺の小中学生や遺跡の知識がない人との交流を図ります。
- バス停やバイクステーションなどの場を設け同時期の銅鐸が出土している大岩山や野洲川流域の遺跡群との行き来ができるサイクルをつくります。



市内の結びつきを強くする施設

建物名	面積
遺構展示室	500m <sup>2</sup>
管理棟	50m <sup>2</sup>
展望施設	200m <sup>2</sup>

### C. 古代国家のスケールを体感できる展示 特定テーマ(4) 方形区画の中の大物建物群等をリアルに伝える展示

#### C-1 古代を感じる展示

- 大きな屋根はプロジェクションマッピングを投影するスクリーンでもあります。屋根の軒先の高さを抑えることで遺構展示施設内部からは周囲の視線が見切れて、没入して展示を鑑賞することができます。
- スクリーンには円弧上に配置された祭殿や、周囲の住宅街で見ることができない三上山をはじめとした周辺の山々と共に再現し、より具体的に伊勢遺跡の理解度を深めることができます。
- スクリーン映像で遺跡関係者よる生の声も聞きながら、現在も進む伊勢遺跡の発掘・調査について学べます。



1/100 模型と柱穴展示とプロジェクションマッピングを同時に見る展示スペース

#### C-2 見えないものが見える展示

- 遺構展示施設の入口や映像投影位置を適切な場所に設け、芝生広場までの展示に沿った動線を確保します。
- 展望施設の上からは、ARでスマートフォンやタブレット上に映した史跡風景に建物を重ね合わせ、「現実」と「仮想」で遺跡の全体像を浮かび上がらせてみます。



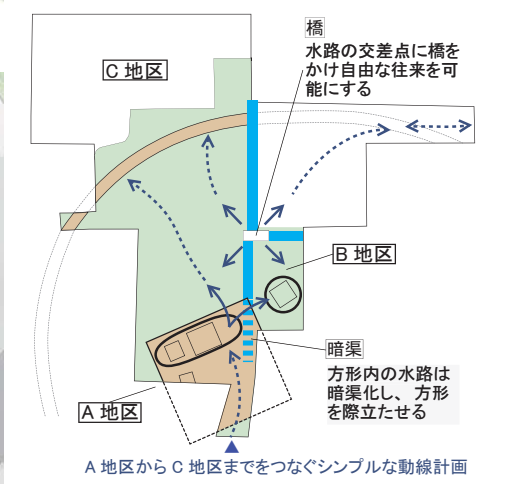
スロープを上りながら様々な角度や方角から楼観の柱穴展示を見ることができる

#### C-3 地区ごとに異なる展示計画

- 遺構展示施設が建つA地区ではSB-123の複製展示を中心に、円弧状に方形区画を取り囲む祭殿を遺構展示施設内の天井に映像で再現展示します。
- B地区の展望施設上から、方形・円弧の幾何学配置を確認すると同時に、タブレットなどを用いて史跡公園外の円弧上にも祭殿をARで再現します。
- C地区では、ARで実スケール・実位置に過去の遺跡をCGで反映させる「拡張世界」で遺跡をリアルに体感します。

#### C-4 シンプルで自由な動線計画

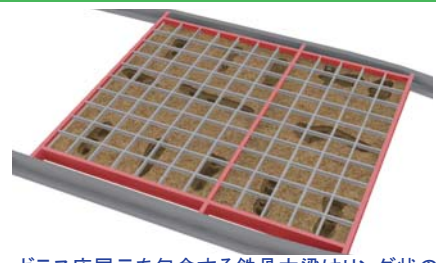
- 画一的な動線は設けずに、A地区→B地区→C地区へ自由に導きます。
- 方形区画を分断する水路は暗渠化し、方形区画を強調すると同時に、展望台への動線を確保します。
- 水路の交差点に効率的に橋を設け、自由な地区間動線をさりげなく確保します。



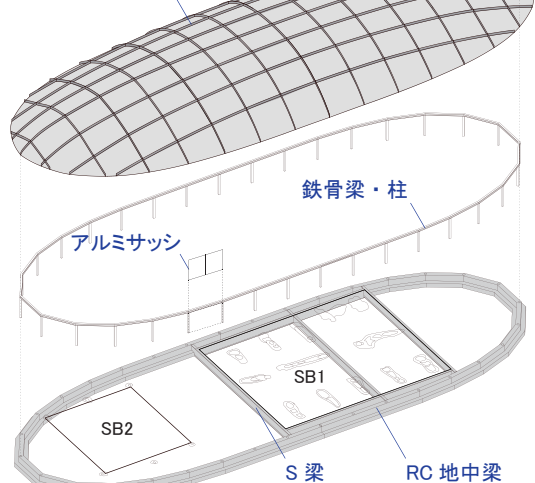
### D. 地下遺構に干渉せず最大活用する 特定テーマ(1) 地下遺構の保存を図る基礎構造

#### D-1 地下遺構を避けた基礎配置計画

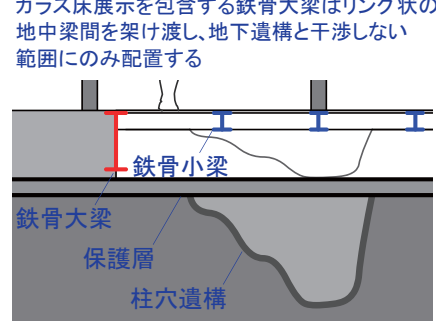
- 大型建物遺構と基礎位置の離隔をとり、地下遺構を確実に保存します。
- ガラス床を支持する構造体は、地中梁間を架け渡すので遺構に荷重をかけません。
- 方形区画内には、保護層を設けた上に建物を配置します。



リブ付き鉄板屋根 t=6.0 1ユニット 3x2M



リング状の地中梁と柱、梁、屋根というシンプルな構成 屋根は搬入可能な一定幅に分割したパネル同士を連結する



鉄骨大梁の間に鉄骨小梁を架け、鉄骨小梁でガラス床面を支持する

#### D-2 遺構をフレキシブルに展示できる空間

- 屋根を支える地中梁は、柱を設ける外周部のみの配置とし、自由な床下展示が可能です。
- 段差のないフラットな空間にフレキシブルな展示が可能です。

#### D-3 施工性に配慮した屋根架構

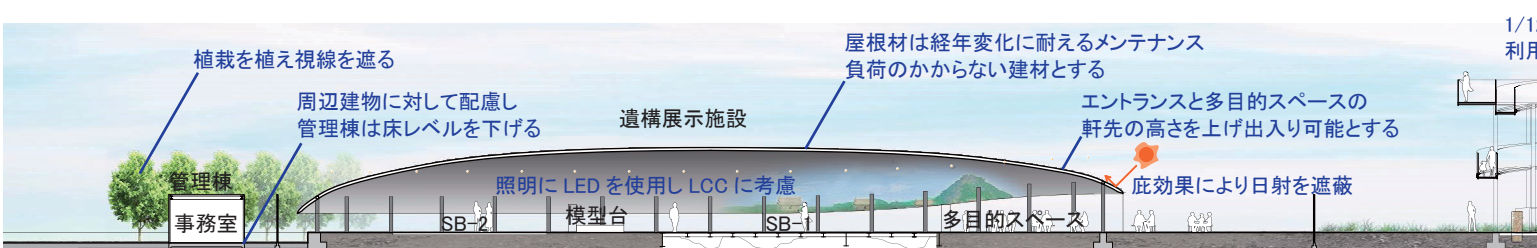
- 幾何学的に合理的なドーム形状を採用し、薄い構造体で無柱の大空間を実現します。
- 屋根は搬入可能な一定幅に分割したパネル同士を連結する簡易な施工法で構成します。

#### D-4 遺構に負担を架けない軽い構造

- 薄い鉄板とリブという屋根構成のため、遺構への荷重を最小限に留めます。



Short Section S=1/200



Long Section S=1/400

### E. 環境負荷・コスト低減に配慮した施設 特定テーマ(5) 事業コストマネジメントについての技術的方策

#### E-1 適切なコスト配分を概算見積で確認

1.(1) 直接工事 (2%)	7,168,000 円
1.(2) 土工・地業・基礎 (3%)	9,185,000 円
1.(3) 躯体 (26%)	88,709,000 円
1.(4) 外装 (9%)	30,102,000 円
1.(5) 内装 (2%)	6,821,000 円
1.(6) 展示 (6%)	21,335,000 円
2. 電気 (6%)	18,445,000 円
3. 機械 (6%)	20,885,000 円
4. 外構 (7%)	21,899,000 円
5. 展望施設 (10%)	33,919,000 円
6. 諸経費 (23%)	76,530,000 円
合計 (税込)	334,998,000 円

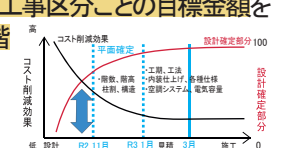
- 1. 建築 (48%) (遺構展示室・管理棟) 163,320,000 円
  - \* 遺構展示棟鉄骨工事 87,664,500 円 鉄骨ファブの概算参照
  - \* 外装: 建具、ガラス、屋根を含む
- \* ガラス床、プロジェクター 什器は展示に含む
- \* プロジェクター2台 約400インチ、10000lm 映像専門業者の概算参照
- \* 欄は外構に含む
- \* 展望施設の鉄骨 65,000 円/㎡で試算

#### E-2 コスト上影響が大きい鉄骨躯体は更に精度高く検証

- 影響が大きい鉄骨(鉄板)躯体に関しては、構造的に成立する部材メンバーを割り出し、鉄骨ファブにもヒアリングの上、コスト内で実現できる検証をしました。

#### E-3 川上段階でのコストマネジメント

- 設計初期にほぼ建築工事にかかる金額の構成の多くが決まります。工事区分ごとの目標金額を決め、設計の川上段階でコスト把握をタイムリーに行い、設計にフィードバックします。



#### E-4 地下遺構の保存に配慮した計画

- 盛土による保護層を30cm以上確保し、その上に地下遺構を避ける形で建物基礎を設置します。
- 工事車両が区画内に入っても遺構を傷つけないよう、遺構展示施設の実設計中に造成工事を先行して行います。
- 設計期間が短いので、建築物は共有できる場所は兼ねるなどし、コンパクトで無駄のない設計とします。

#### E-5 どの段階でも成立する展示計画

- 現時点でもトータルな展示が可能で不確定要素の多い整備計画の中でフレキシブルに対応します。

